



県御船保健所 衛生環境課長
山口 泰之さん
やまぐち やすゆき

小さくても命、 最期まで愛情を注いで

一定期間の命

保健所では一定期間しか犬を置いておくことはできません。ですから、引き取る人を探してあげるといった、幸せになれる多くの機会を与えてあげられないのが現状です。捕獲から一定期間が過ぎても、新しい飼い主が見つからなければ残念ですが、「致死処分」という末路をたどることになります。

犬も家族の一員

犬が持ち込まれる例として、大きくなりすぎて飼うスペースがなくなった、経済的に厳しくなった、うるさくて近所迷惑だからなど、飼い主の無責任な理由が多く見られます。特に酷いと思ったのが、「病気になるから」「老犬になったから」という理由ですね。「最期まで看取れない」という理由に言葉を使いしました。そんな勝手な理由には本当に許せないし、もう犬を飼う資格はないと思います。今までこの犬に心を癒してもらったと

いうものすごく大きな恩があるはずなのに。捨てられる犬の立場になって考えてみると、たまらない気持ちになると思うんです。家族から捨てられる、見放されるわけですから。最期まで看取ってあげることが当然だと思います。家族の一員として迎えた気持ちを思い返してもらいたいです。

不幸な命を減らそう

平成23年度では不妊去勢手術をしなかったために子犬が増え、保健所へ持ち込むケースが全体の2割を占めています。手術はかわいそうと思われる飼い主もいますが、生殖本能を満たされない犬には激しいストレスがかかり、結果、性格が荒くなったり、人に噛みついたりすることがあります。手術をすることでこのストレスから解放され、安定した精神状態で暮らすことができ、寿命が延びているという報告もありますので、犬にとって良いことと考えられています。不幸な犬を1頭でも減らすため、不妊去勢手術をお願いします。犬に限らず動物を飼う時は終生飼育（お別れするまで飼うこと）が大原則。そこを忘れないで愛情を注いで欲しいです。家族が一人増えたんだという認識が必要であり、最期まで飼うという責任を持つことが飼い主の大切な義務だと思います。

犬登録・予防注射（平成23年度）

	登録頭数	狂犬病 予防注射頭数
益城町	2,129	1,526
管内合計	6,738	5,037

※生後91日以上の犬は、狂犬病予防法による登録をすることと、毎年1回の狂犬病予防注射を受けさせることが義務づけられています。

町内の犬捕獲など状況（平成23年度）

捕獲数	引取数	返還数	譲渡数	処分数
45	3	1	0	47

家族以上に深い、家族の絆

長老犬と暮らす木庭さん（宮園）



木庭さんの家で飼われているチヨビちゃん（ヌス）は現在14歳。人間の年齢に換算すると70歳くらいになるそうです。

飼い主の妙子さんは「今まで犬がいなかったことがありません」というくらいに愛犬家。犬の長寿の秘訣を聞いてみると「食事は特に気をつけています」と話します。「今は高齢で庭しか散歩しませんが、遊ぶことが好きで子犬の頃は家の物を壊して回って、もう大変でした」と昔のチヨビちゃんの話懐かしそうに語ってくれました。

1月で15歳になるチヨビちゃん。「家族以上に家族としての絆が深い」とチヨビちゃんを撫でながら妙子さんは笑います。幸せな犬と飼い主の姿を妙子さんたちに見ました。